

## 11月のコラム ～コラムでコロナ禍を振り返って～

季節は巡り、各地の紅葉の様子が伝えられるようになりました。時は、何があっても誰に対しても変わることなく確実に流れていきますね。

先日、久しぶりにお会いした方に「今年に入ってからのコラムを読み返してみたら『ああ、その頃はこんなだったなあ』とコロナ状況下での流れがよく分かった」と言って頂きました。自分では考えたこともなかった視点ですが、その時々感じたことを書くことは、記録にもなるのですね。自分が、その時々どう受け止めていたのか？コラムを読み返してみました。

4月…落ち着いて書いたつもりですが、直面している危機に対し、不安や緊張、そして浮足立った自分を治めようしているような気負いを感じます。

5月…少し冷静になっているようです。緊急事態宣言など現実に行っていることや世界・各界のトップが何を発信し、どういう方向に向かおうとしているのかに注目し、その中で、リーダの在り方について考察しています。

6月…「マスク着用」「不要不急の外出を避ける」などが定着して、WEB会議なども一層身近になってきています。With コロナの生活の中で、対面によらないコミュニケーションの可能性について考えていました。

7月…この頃は、各分野での新たな取り組みが積極的に紹介され、経済活動も少し先が見えた気がしていたのでしょうか。強制的に変えざるをえなくなった危機的状況をチャンスに変える視点に目を向けようとしています。

8月…直接コロナ関係に触れているのは、米マイクロソフト社の今後に向けてのIT教育に関してのみです。夏になると治まると考えられていたのに、衰える気配がないことがわかり「この状況下での未来」に目を向け始めていた頃かなと思います。

9月…With コロナの生活にもすっかり慣れ、自粛？も限界にきて、人が動き出した時期でしょうか。私も博物館へ出向いています。「生で感じる」ことから様々な感性が呼び覚まされる感覚を得たようです。

10月…大学のオンライン授業の継続に疑問を投げかけています。同調圧力への危惧も。1年近くが過ぎ、新型コロナウイルスが、だんだん未知の生物でなくなってきたのに、対応は進まないものなんだなあ、人の非力を実感したのかも・・・

そして、11月。今は、経済的な生活格差に心が痛みます。GOTOトラベル等を活用し、何度も長期に渡って利益を享受し、日々を楽しめる人と、仕事を失い、住む家の家賃や光熱費さえも払うことがきなくなっている人。消費活動を活発にすることで経済は回っていくのでGOTO等も必要と思います。が、一方で、1回の旅行で使ってしまう5万円・10万円が、1か月なんとか「生き延びるための額」に相当するという事実にも胸を締め付けられます。

2020.11月 水田かほる

